

## 今月の御教え

上から下へ水を流すのはみやすいが、下から上へ流すのはむづかしい。道を開くといても、匹夫の俗人から開くのはじやから、ものがむづつかしゆうて暇がいる。神のおかげで開かせてもらうのぞ。たとえば、一時はむづかしいことがあっても、辛抱してゆくうちに徳が受けられる。

……金光教祖御理解 第九十節……

### 解説

神社、又は仏教などの既成宗教は、お上の保護もあり、世間においても尊いものと認知されていますので、布教には何の差し障りもありませんでした。しかし教祖様が開かれた、この“天地の親神様”のお道は、「一庶民の唱えた新規な教え」としてお上の保護は全くありませんので、仏門の權威を笠に着た“山伏”の迫害もたび重なりました。しかしその後の御比礼著しく、御蔭を受けた方々の尽力により、“神王職”を受領出来、やっと公然と布教が出来るようになりましたが、新しい明治の世を迎え、又しても国策による、様々の抑圧の中を教祖様は“神様への厚い信心”と“信心辛抱”のみで全国各地、津々浦々まで道を開いて行かれたのであります。故に、教祖金光大神様は、各地に布教に出てゆく篤信の氏子に、上記の如く「上から水を流すのは容易い、しかし下から上に流すことは容易ではない、そのように、何の後ろ盾もない貴方たちにとって、道開きは難しい、しかし神様のおかげで開かせて頂くのであるから、一時は難しくとも、辛抱してゆけば必ず、道が開ける」と、“信心辛抱”の大切さを説かれたのであります。私達も、『信心の辛抱でお蔭は出るのであるから、信心の辛抱を強くせよ』との教祖金光大神様の御教えをしかと頂きたいものであります。